

特 67

269

明治十六年三月

第一號

廣島山林學研究會報告

山林學研究會規則

第一條 本會ハ何人ヲ論セス會員タルヲ得

第二條 會員ハ山林一切ニ係ル事件質問應答スル

ヲ得

第三條 會員ハ會費一ケ年金三拾六錢ヲ出ヌヘシ

特
369

廣島山林學研究會報告第一號

言

山林ノ事業タル國家殖産ノ大本人生必需ノ供給ニシテ重
且大ナルモノナリ而シテ本邦從來山林學ノ設ケナキヨリ

山林ノ如クモノタルヲ知ラス動モスレハ忽緒ニ附スルノ弊
ナキ能ハス今ヤ本邦人士ノ山林蕃殖ヲ企圖スルモノ其人

ニ乏シカラス大日本山林會林學協會ノ如キハ會員數千人
ノ多キニ及ヒ三重縣ニ山林專門會ノ設ケアル等到處其

道ヲ講シ其事業ヲ興起セントス我山林學研究會ナルモノ
ハ明治十五年六月開會シ爾來會員續々増加シ勢ヒ報告書

ヲ刊行セサルヘカラサルニ至レリ實ニ本會ノ榮譽ナリ乞
諸君ト共ニ益此道ヲ講究シ實際ニ施行シ他年我藝備兩州

ノ山林到ル處鬱蒼トシテ水源ニ乏シカラズ河川舟筏ノ便
ヲ得海濱捕魚ノ利倍多シ人生必需ノ薪炭用材ニ優給シ遠
シ海外へ輸出シ國家殖産ノ大本ヲシテ益堅固ナラシメン
事ヲ望ム

明治十六年二月

編者識

山林學研究セサルヘカラス 福島哲三

醫家ハ人体ノ組立及ヒ其解剖法ヲ熟知スルニ非サルヨリ
ハ決シテ人体ニ就テ治療ヲ施スコト能ハス獸醫モ亦然リ其
他農ニ工ニ百般ノ職業ニ従事スルモノ實地上ノ習練ハ言
ヲ待タズ理説上ニ於テモ密接ノ關係ヲ有スル所ノ學術ヲ
研究セサルヘカラス否ラスシテ其業ノ遂成ヲ企圖スルハ
木ニ縁テ魚ヲ求ムルト一般決テ得ヘカラサルハ世人ノ允

許スル所ナリ而シテ獨リ山林ノ事業ニ於テ之ト密接ノ關
係ヲ有スル所ノ學術ヲ研究セズシテ可ナルノ理アラシヤ
樹木ハ種類ニ因テ乾燥陰濕寒暖高低等適所ヲ異ニシ圓材
角材薪炭材等各其使用ヲ異ニス若シ猥リニ植樹ニ使用ノ
道ヲ轉倒スルカ如キハ特リ利益ニ而已ナラス之カ爲メ不測
ノ害ヲ蒙ルコトアリ庸醫ノ診斷ヲ誤リ人ヲシテ天死セシム
ルト一般ナリ故ニ山林ノ業ニ従事スルモノ山林學ヲ研究
セズシテ可ナルノ理アラシヤ諸君宜ク猛省スル處アレ

宿題

山林ニ樹木アレハ何等ノ譯ヲ以テ水源ヲ

涵養スルヤ

答

清地 俊義

凡ソ樹林ノ水源ヲ涵養スルニ二類アリ一ハ林地ニ水分
 ナ貯蓄シテ水源ヲ養ヒ一ハ雨澤ヲシテ天ニ行ハシムル
 ナリ
 夫レ樹木ノ性タル葉ハ空中ニ浮遊セル炭素炭素瓦斯ヲ
 其裏面ヨリ蒸散折射蒸散吸収シ根管ヨリ吸収シタル炭素
 シ炭素ハ枝幹ノ内部窒素ハ枝幹ノ外部即チ樹皮ヲ運行
 上騰シテ酸素水素ト共ニ葉面ヨリ蒸發スルモノナリ而
 シテ其蒸發スルニ針葉樹ハ葉ノ細キヲ以テ蒸發ノ分量
 稍尠ナク濶葉樹ハ其分量多クシテ恰モ蒸發ノ形容ハ葉
 ノ形容ニ從フカ如シ故ニ針葉樹中杉ノ如キハ分根延蔓
 多量ノ水分ヲ吸收スレ共葉ノ蒸發ハ多量ナラサルヲ以
 テ水分ヲ常ニ林地ニ餘マシ加フルニ枝葉密接陽光ヲ遮
 蔽シ地層ヲシテ始終涵濕ナラシム是レ針葉樹ノ地中ニ

水分ヲ貯蓄スル以所ナリ又濶葉樹ノ葉ハ水液ヲ蒸發ス
 ル更ニ多量ナルヲ以テ根管ノ吸收スル土汁モ動モスレ
 ハ盡ントスルヲアレモ幸ニ夜間ニ貯蓄スルアツテ僅カ
 ココノ患ヲ免カル而シテ葉面ヨリ蒸發シタル諸元質ハ
 一旦空中ニ飛散スルモ寒冷ニ遇ヘハ水素凝結集合シテ
 雨トナリ再ヒ降テ地層ヲ涵濕ス其水源ヲ涵養スルハ針
 葉樹ト同一ナリト雖モ雨澤ハ一タヒ空中ノ烈風ニ逢ハ
 他所ニ降ルモ計ル可カラズ只水分ヲ地中ニ貯蓄スル
 ハ此虞アルヲナシ故ニ余ハ前項ニ於テ土地ノ水源涵養
 ノ爲メニハ杉樹栽培ノ宜シキヲ陳述セリ
 福島哲三評云森林ハ雨澤ヲシテ天ニ行ハシムルノ説
 大日本山林會及ヒ林學協會ニ於テモ未ダ見サル所ナ
 リ而シテ我會員既ニ斯説アリ予歡ニ堪ヘス因云英人
 「ゼームス」プロオノ氏云ヘルヲアリ森林ハ多量ノ水濕

ヲ蒸發シ爲ノニ林地近傍ノ空氣涼冷ナリ斯ノ涼冷ナル空氣風ニ驅逐セラレ廣原平野ヨリ上騰セシ温暖ナル空氣ニ觸ル、キハ消散スレル之ニ反シテ再ヒ涼冷ナル空氣ニ觸ル、キハ凝結シテ雨トナリ降下ス是レ森林アルノ地ハ降雨ノ多キ以所ナリ

宿題

人造林手入洗伐ノ法方如何

答

湯淺常太郎

人造林トハ人爲ヲ以テ地質適應ノ樹苗ヲ植挿シ以テ森林トナシモノナリ檜杉松ノ類壹坪ニ四本ヲ移植シ翌年ヨリ三四年間五月ヨリ七月迄ノ間ニ下草ヲ芟除スヘ

シ樹木成長ニ隨テ下草枯死ス而シテ樹木己ニ成長シ十年ヨリ十二三年ニ至レハ葉々密接シ空氣ノ流通ヲ逼塞シ成長力ヲ疲勞ス是ニ於テ初期第一回手入洗伐ヲ行フヘシ夫洗伐ノ事タル喬林ニシテ家屋建築船艦橋梁其他工業用ノ材料ヲ仕立ヘキ目的ナレハ勤テ良木ヲ存置シ可成的衰弱或ハ惡木ヲ洗伐スルモノトス而シテ洗伐ノ時期ハ樹木長成ノ度及ヒ強弱ヲ察セサルヘカラス故ニ一定ノ年季ハ附シ難シ又過密ナレハ成長力ヲ疲勞シ稀疎ナレハ風雪ノ爲メ毀傷ノ害ヲ免レシ洗伐其宜ヲ得サレハ却テ林相ヲ衰頹ナシムルコトアリ能ク々々實査注意スヘシ而シテ第二回洗伐ハ二十年前後第三回洗伐ハ三十五六年ニ施行スルヲ適度トス是ヲ終期洗伐トス當初壹坪ニ四本ノ植苗漸次洗伐シ來テ四坪ニ壹本ヲ存置スルヲ喬林手入洗伐ノ通常トス

宿題

天造林手入洗伐ノ法方如何

答

長尾 尙六

天造林ハ樹木ノ樂處ニシテ地質氣候ニ適應ノ木種自然ニ混生シ森林ヲナセシモノヲ云天造林ハ手入洗伐ニ際シ初メテ用材或ハ薪炭材ノ目的ヲ定ムルモノナレハ其樹林ヲ齊整スルニ當リ先全林ヲ熟視シ最モ多數ナル木種ヲ存置シ他ノ異種木ヲ洗伐スヘシ異種木ノ内或ハ並立セサルモノアリ松ト栲ノ如シ又並立シ得ルモノアリ樺ト榎ノ如シ故ニ並立シ得ル木種ノ最モ多數ナルモノヲ存置シ前後左右ノ距離ヲ見計ヒ惡木ヲ洗伐スヘシ而シテ天造林ハ人造林ニ比スレハ稍密ニ存置セサルヘカ

ラス何ントナレハ人造林ハ樺樹ノ時ヨリ下草刈殺等ノ手入アリテ木幹ニ力アリ且配列齊整セリ天造林ハ之ニ反シ諸樹過密ニ成長シテ配列正シカラヌ木幹舒長スレト力ヲ無キカ如シ故ニ洗伐度ニ過キ樹木稀疎ナルルハ風雪ノ爲メ折傷ノ害ヲ免ル、能ハサルニ付人造林ノ洗伐ニ比スレハ稍密ニ存置セサルヘカラス又洗伐ニ先テ全林ヲ反覆丁寧調査シ最モ多數ナル木種ヲ撰擇セサルヘカラサルナリ

○每號紙ノ都合ヲ以テ佛國森林法抜抄掲載セントシ先ツ目次ヨリ掲載ス

佛蘭西森林法目次

- 第一卷 森林制度
- 第二卷 森林官
- 第三卷 國有ノ森林
- 第一款 境界畫定及界標建設
- 第二款 存伐整理
- 第三款

伐木糶賣 第四款斫伐整頓 第五款伐跡測量及伐跡檢
 査 第六款 實牧豕權果實牧豕權及牧養家畜權ノ糶賣
 第七款國有ノ森林ニ於テ行フ探 特權 第八款國有
 ノ森林ニ於テ行フ資用權 第四卷皇室ノ森林 第五卷
 國ニ返納スヘキ皇族資俸及貴族家祿ノ名義ヲ以テ占有
 セシメタル森林 第六卷邑及公舎ノ森林 第七卷森林
 制度ニ服従スル共有ノ森林 第八卷民有ノ森林 第九
 卷公用供備ノ森林 第一款海軍所用ニ供スル森林

明治十六年三月三日出版御届

廣島區平塚町
九十五番地

廣島山林學研究會假事務所

滋賀縣近江國坂田郡烏居本村
一番地

編輯兼
出版人

福 島 哲 三

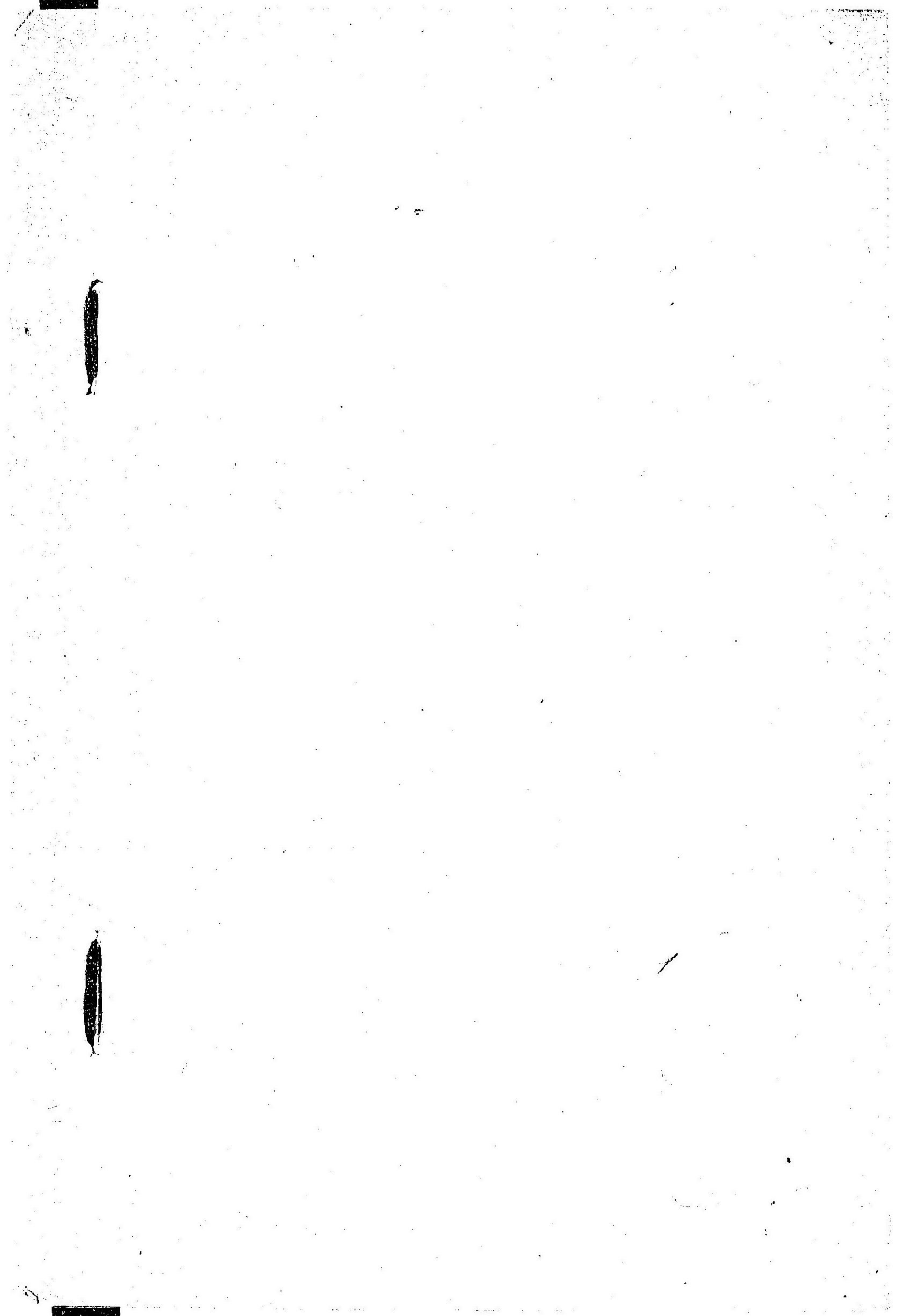
廣島縣廣島區平塚町
九十五番邸寄留

宿題

建築用材薪炭材共冬期伐採スレハ
 如何ナル理由アリテ利益多キヤ
 建築材ト薪炭材ヲ仕立ルハ何レカ
 利益多キヤ

右四月第一土曜日迄ニ答詞御寄送
 ノ

廣島山林學研究會



特67

369

廣島山林學研究會報告

明治十六年三月

第一號

065353-001-4

特67-369

廣島山林學研究會報告

第1, 5, 6号

廣島山林學研究會

M16

CCE-0200

